

図書館長・副館長交代のお知らせ

11月15日をもって岡澤憲芙教授（社会科学部）が図書館長を退任し、11月16日をもって浦川道太郎教授（法学部）が新図書館長に就任いたしました。また、副館長（資料担当）についても、酒井晨史教授（法学部）が退任し、兼築信行助教授（文学部）が新副館長に就任いたしました。

なお、システム担当副館長の深澤良彰教授（理工学部）は留任いたします。

また、11月10日付人事異動で、図書館事務部長が志水泰夫から神保裕行に交代いたしましたのでお知らせします。

リサーチフロンティアをどう確保するか

岡澤憲芙（前図書館長）

情報過程、つまり情報の生産→分析→分類→加工→貯蔵→分配の過程は、加速度的に構造変化を経験している。教育図書館として、また研究図書館として、大学図書館は21世紀初頭にかけて大胆な構想力を要求されることになるだろう。

科学技術の飛躍的發展、政策課題の複雑・多様化、国際化の進展、などを背景にユーザーの情報要求は不断に伝統的な図書館情報学に挑戦して行くことになるだろう。電子媒体情報へのアクセス・ルートをどう確保し充実させていくか。ユーザーの情報リテラシーを向上させながら、情報システムをどう改善していくか。いよいよ複雑化し拡散していくであろうリサーチフロントの最先端をどのようにキープしていくか。知恵と工夫がいっそう求められることになるだろう。高度情報化社会の本格化は、グーテンベルク以来久方ぶりに到来した、新たな図書館情報学の発酵母胎である。もちろん、21世紀のアレクサンドリアは、技術マインドを持った聡明なユーザーをパートナーとして要求するであろう。



新時代の大学図書館を目指して

浦川道太郎（図書館長）

世紀の転換期を迎えて、大学図書館も大きく変化しようとしている。

これまで図書館は、多くの書籍や雑誌を所有し、保管して、その施設を訪ねる者だけに知識を提供してきた。「図書館は大学の心臓である」といわれるが、心臓に蓄えられた知識という血液は、大学の内部だけを循環して流れ、大学で学ぶ者、研究する者、あるいは知識を求めて大学を訪問する者のみに養分を与えてきたのである。

しかしながら、今日、この状況は一変し、図書館に蓄えられた知識は、大学内部だけに留まらず、学外に向かって流れ出そうとしている。それは電子化された情報として、データベースやインターネットという媒体を介して、昼夜を問わず知識を求める全世界の者に向かって流れ、世界中を循環するようになってきている。

試みに、ハーバード大学図書館にインターネットで接続してみよう。ハーバードを卒業し、連邦最高裁で「偉大な反対意見者」と呼ばれたホームズを著者名で検索すれば、124タイトルの本が所蔵されていることが分かる。また、ゲッティンゲン大学図書館に接続すれば、彼の大学で『権利のための闘争』を鼓舞したイェーリングに関わる本が145タイトル所蔵されていることが分かる。このように、インターネットにより、見聞記を通して外観だけで理解していた世界の著名な大学図書館の中に実際に入り、現実に所蔵図書を検索することまで可能になってきているのである。

わが図書館も、岡澤前館長のもつとで、新WINEシステムを導入し、本年4月からは本格的な稼働



に入る。インターネットのブラウザ上で図書を検索できる新WINEにより、大学の心臓である図書館に蓄えられた知識は、さらに強い鼓動となって世界に出ていくだろう。これは開かれた大学を目指す早稲田大学の抱負にも沿うものであり、喜ぶべきことである。しかしまた、このことにより、本学が持っている知的資源が学外の評価を受ける機会も多くなろう。

図書館は、変化する情報環境に対応して、ハードの面でもソフトの面でも一層の取り組みを強化しなければならない。それとともに、早稲田にしかない、世界からの評価にも耐える知的資源の蓄積も図らねばなるまい。皆さまのご協力を得て、新時代の図書館を目指して歩みを始めたい。

浦川道太郎（うらかわ みちたろう）

専攻分野 民法、損害賠償法

主な担当科目 民法

兼築信行（かねちく のぶゆき）

専攻分野 和歌文学

主な担当科目 日本文学基礎演習

文学・言語系基礎演習